

事業所名 京都市児童療育センター「きらきら園」

公表日 2025年 3月 31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	19	4	限りある資源の中で、様々な工夫を行っています。個別療育ができるように部屋の確保がされていたり、活動の部屋を分けて遊びの部屋を複数分けるなど工夫をしています。	活動や参加人数によっては、スペースや部屋が足りないことがあります。設備の限界もあります。使い方を考えたり、改善を検討していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	16	7	職員が休んでも応じ合うなど工夫をしています。お子さんの欠席が多い日は出席人数に対して職員が多いこともあります。	一方、個別対応が多いグループの時や職員の休みが多く重なってしまった時には、人員基準は満たしているものの職員数が足りず、十分な対応ができないと思う場面もあります。配置の工夫や臨機応変な体制の変更などが必要と感じています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	17	6	毎年、環境設定に問題意識を持ち、改善を行っています。	水回りの構造や、もともと設置されていた棚やタオルかけなどは、必ずしもこどもにとってわかりやすい、使いやすいものではありません。少しでも改善しようと様々な工夫をしています。使い方の工夫とともに、構造上の改善も視野に入れて計画的に取り組みます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	19	4	利用されている方が目にする場所の片付けや掃除はできています。	日常的な片付けや掃除に時間がかかり、他の業務の時間が取れないことがあります。生活空間の収納についてはどの職員も共通認識しやすい工夫が必要です。老朽化した設備や古い備品は掃除をしても限界があり、適宜買い替えや改修が必要です。空調については、京都市の工事により新機種に変更され、照明もLED化されましたが、感じ方に個人差もありますので、調整も含めた対応が必要と考えています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	22	1	その子にあった部屋を作り好きなことを沢山遊んでもらえる環境にしたり、臨機応変に対応されています。	状況によっては部屋の調整が直前になることがあるため、事前の調整が出来るようにします。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	18	5	支援の前後に打ち合わせとふり返りの時間を取り、職員全員が意見を言える場があります。	スケジュールによっては十分時間が確保できなかったり、勤務時間や業務の関係で参加できない職員がいたりすることがあります。逆に、設定された時間を超過してしまい、他の業務に影響が出ている時もあります。改善に取り組みます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	20	3	「事業所評価」を実施して、結果について職員全員で共有し、会議で検討をしています。そのほかにも、保護者の方と遊びの報告時や面談の時などに話をし、気になること等を聞いたり、それを職員間で共有することで改善につなげています。取り組みごとのアンケートや普段の保護者の方との関わりの中でも願いを汲み取ることを大事にしています。	意向は把握していてもすぐに改善に至っていないことや、環境面のことなど、目に見える点での改善が遅れていることがあります。早急に取り組むことができるように改善します。

適切な支援の提供	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	18	5	毎日の引継ぎや会議、普段の関わりの中で意見を出し合えることや、定期的な面談や、意見交換、会議の場など意見を言える場があります。	意図が理解されなかったり、具体的な改善につながらなかったり、改善しても定着しなかったりすることがあります。改善します。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	19	4	第三者評価は令和2年に実施しホームページに公開しています。	職員の入れ替わりもあり、改善の共通認識ができていないこともあります。令和6年度からは、京都市内の「児童発達支援センター」間での相互評価の取り組みがスタートします。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	20	3	法人内での研修は年間を通して階層別を実施されています。年度末には「実践発表会」が実施され、各事業所の実践に法人全体が学びを取り組んでいます。	研修の機会はあるものの、参加は限られています。施設内での研修、勤務時間内での研修や伝達研修を増やす必要があります。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	17	6	事業所評価の時には「支援プログラム」は作成途中で公表できていません。	今年度内に公表します。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	20	3	アセスメントを行い職員間で確認し意見をだしあうことや、グループ会議など計画書を作成するために必要意見交換の場を設け意見を出し合っています。	不十分さも感じており、より丁寧に振り返り分析ができる機会があればよいと思っています。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	22	1	計画はお子さんに関わる職員の意見が反映されるように聞き取り等を行っています。お子さんの最善の利益について考慮しようとしています。また、計画書の段階で担当の職員が目を通し意見を出して改善しています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	19	4	計画書の内容は職員間で共有しています。基本的には計画に沿った支援を行っています。	計画に基づいた支援を実践していますが、常に意識して取り組むことを徹底できているかということについては検証する必要があります。計画を意識し展開しやすくする工夫や対策が必要です。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	17	6	日々の行動観察によるインフォーマルなアセスメントは行っています。また委託により「新版K式発達検査」「感覚プロファイル」などご希望や必要に応じて実施しています。	フォーマルな「アセスメントシート」の利用は実施できていません。保護者や外部機関との連携のためにも、標準化されたツールの導入を検討しています。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	20	3	それぞれの項目の内容を踏まえ、職員間で会議をし適切に設定を一人ひとりの支援内容を作っています。	移行支援と地域支援の項目の違いを明確化させる必要があると考えています。
適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	23	0	次回の活動内容をグループで確認しあう時間を設けています。役割を振り分けて、取り組んでいると思います。また、いろんな意見を出し合ったうえで案をだせていると思います。	次回のプログラムの立案を振り返りの時間にしておくように決めましたができていないことがあります。もっと話し合う時間があれば良いと思っていますので、改善をします。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	22	1	子どもたちの様子を見て、活動内容を変更して行っています。同じでもいいのか、改善すべきか毎度確認を行い変化をつけられていると思います。グループに複数の職員が入り、意見を言い合える環境にあります。そこでどの立場の職員も意見が言い合え、聞いてもらえる環境なので、考え合えているのではないかと思います。また、	多様な活動に取り組むことができるように研修にも取り組みます。また、お子さんの安心感の形成のためになど、意図をもってあえてプログラムを固定させている時もあるので、その場合には保護者や子どもに説明を行います。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	21	2	集団活動が中心ですが、こどもの状況に応じて柔軟に個別活動（個別療育・個別対応）も実施しています。個別で出来ることや、集団になった時の状況下での変化はどうか等と色々なことを想定し考えることで計画書を作成し支援をしています。	個別活動の必要性の判断基準、情報共有の方法、他の業務との時間的な兼ね合いなどが課題です。

関係機関や保護者との連携	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	21	2	打ち合わせの時間をとって確認し、チームで連携して支援を行っています。慌ただしい時間の中でも端的にはされていると思います。	計画が不十分だったり、準備に時間がかかったりし、十分な時間が取れていない状況があります。準備内容がしっかりと決められていない時もありぎざぎざの時間のなかで打ち合わせをすることがあります。時間通りに実施する努力とともに、もう少し話し合える時間の余裕が出来るように取り組みます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	20	3	療育後の振り返りを実施することを職員全員に周知し、短時間でも振り返りを行えるように意識しています。複数の目で見、その時の状況や原因などを話し、お互いの意見を言い合える時間になっています。	送迎車添乗などの業務の重複により参加できないことがあります。十分時間が取れているか、職員全員が意見を出しているかは、グループによって差があります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	19	4	日々記録をすることで、日に寄つての変化を確認することが出来、支援の改善につなげています。チェックをしていますので、記録の漏れはありません。	時間が足りず、記録が遅れがちになります。その日の療育内容によっては、後片付けに手が要り、記録が後回しになることがありました。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	23	0	記録をもとに、日々の子ども達の状況とともに全員で確認したうえで見直しが必要か職員間で確認し適切に行えています。	
	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	23	0	必要な場合には実施し、参加しています。頻度は少ないです。お子さんの状況を把握している職員が出席します。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	21	2	深草支所はぐくみ室の「親子すこやか発達教室（らっこくらぶ）」にスタッフとして職員が参加し、保健センターとの連携を行っています。医療や教育の関係機関との連携はまだ限られていますが、南部自立支援協議会の児童部会や医ケア部会に職員が参加し、地域との連携を行っています。	地域保健に関して、深草支所以外の地域でも連携したいと思っています。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	22	1	直接お会いして話す機会が取れなくても、書面で情報共有したり、電話でお話ししたり、問い合わせしやすくなりする工夫はしています。連携で行き来する機会が増えてきています。	インクルージョン推進の観点を更に理解して取り組む必要があると思っています。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	22	1	引き継ぎ文書を作成しています。顔を合わせて引き継ぎを行う場合や、電話で対応することもあります。深草支所の深草子どもネットワーク会議では、管内の情報共有がされるように積極的な取り組みを実施されていて、きらきら園も参加しています。	就学していくお子さんの引継ぎなど、支援学校とは実施できていますが、地域の小学校などとも連絡の取り合いがあれば、さらに縦の支援ができるのではないかと思います。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	22	1	京都市の、児童発達支援センターの機能強化の方針を受けて市内9か所のセンターと協力し、きらきら園は南区・伏見区の事業所を訪問するなどの役割を果たしています。また、深草地域の一部の事業所と職員懇親会をするなど、地域づくりを始めようとしています。	今後一層、地域の他の事業所と一緒に、地域全体の取り組みの向上を図ってまいります。
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	21	2	発達相談の心理の先生など、きらきら園以外の専門家に助言を受ける機会があります。京都市や深草や伏見の子どもネットワーク、南部自立支援協議会での研修があり、職員が参加しています。	実施していますが、センターの機能を維持・向上させるためと考えると機会が少ないと感じています。外部研修の機会はありますが、職員全員が研修には参加できていない現状です。年間を通して全員が何かしらの研修に参加できるようにする必要があると思います。

携	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	23	0	南部自立支援協議会の児童部会、医ケア部会、相談支援専門員部会、運営会議に参加しています。また、深草・伏見の子どもネットワーク協議会に参加しています。	更に積極的な取り組みが求められていると思います。
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	14	9	子育て相談室、言葉の相談室など地域の親子の相談に応じる機会を設けています。また、「きらきらパーク」という、療育に通っていない地域の親子やきょうだいが集って遊ぶ機会を年間4～5回実施しています。	地域のイベントなどの取り組みに参加ができていません。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	22	1	療育の前後にお伝えしたり、お聞きしたり、必要であれば時間をとって面談を実施したりしています。	お伝えする際の伝え方の工夫などが必要と感じる場合があります。わかりやすく伝えることができるように、また、機会も増やすことができるように工夫します。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	19	4	卒園児の保護者の方に来ていただき、実際に体験等を聞く場を多く設けています。低年齢のお子さんは親子で遊ぶことを大切に、お子さんの姿を客観的に捉えたり、具体的なアドバイスをする場にして、子育てを楽しむことが出来るように取り組んでいます。ペアレントトレーニングという名称では実施していませんが、保護者の方向けの研修会はさまざまな内容で企画しています。	年間予定はありますが、プログラム化はされていなかったり、様々な理由で参加できないご家庭にむけての支援はできていないことがあると思います。不十分であるので、充実できるように取り組みます。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	19	4	基本的なことは契約時に説明しています。加算や利用料の説明はとても丁寧にしていると思います。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	23	0	お子さん本人に聞くことは、意識して取り組み始めたところです。	家族の意向は確認していますが、子どもの意向を聞いて取り入れることはこれからもっと大事にしています。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	23	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	23	0	モニタリング時以外にも随時相談に応じています。声掛けも行っています。グループだけではなく、専門職等、垣根を越えて共有し合っているのではないかと思います。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	23	0	グループでの保護者交流は日常的に実施しています。在宅児対象に保護者会(親の会)があります。その他、障害別や学区別など、必要に応じて保護者同士をつなぐ支援をしています。学校園の長期休み時に、きょうだいを中心にした活動を実施し始めました。在宅児のグループでは家族参観日を休日に実施し、家族交流の機会としています。	個別療育の保護者の方同士の交流を、工夫して取り組みたいと考えています。きょうだい児同士で意図的に交流できる場も企画したいと思っています。

	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	22	1	各グループ内では対応できるようにしているつもりです。定期的に会議を設けて、相談の内容について検討しています。	いつでもゆっくり相談できる環境にはなっていないのではないかと思います。改善に取り組みます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	16	7	ほけんだよりを、春・夏・秋・冬で出しています。	通信は以前発行していましたが、今年度は途絶えたままになっており、ブログの更新もなかなかできていません。もっと情報発信できるように取り組みます。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	22	1	個人情報の取扱いルールのものに取り組んでいます。	職員室内の管理が不十分な場合があるので、意識して取り組みます。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	23	0	必要な場合には個別対応をしています。	わかりやすい言葉での表示や見える化に取り組みます。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	14	9	申し込みの上、地域の方が参加できる土曜日のあそび場「きらきらパーク」を実施しています。	機会がほぼありませんので、地域の方々に開かれた取り組みなどを検討します。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	21	2	年間を通してマニュアルの改善を実施しました。	まだ、改善されていないマニュアルがあります。また、周知の面で不十分なので、保護者に向けて周知する取り組みを行います。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	22	1	策定し、訓練を実施しています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	22	1	対応策や、情報共有を図るように対応しています。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	22	1	朝礼で当日のアレルギーの有無を確認しています。また、各対応方法を確認しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	20	3		
非常時等の対応	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	21	2		保護者への周知はあまりできていないので、工夫して取り組みます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	22	1	毎日の情報共有の場にて報告の機会があります。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	23	0		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	20	3		